

令和5年度 事業報告書

学校法人 金沢科学技術学園

(専) 金沢科学技術大学校

I. 法人の概要

1. 基本情報

①法人の名称 学校法人 金沢科学技術学園

②主たる事務所の住所、電話番号、FAX番号、URL

住所：石川県金沢市三社町11番16号

電話番号：(076) 224-3118

FAX番号：(076) 233-8528

URL：<https://www.kist.ac.jp>

2. 建学の精神

「技術教育を通じた人間教育」を教育理念として掲げ、技術、知識のみの習得にとどまらず、豊かな人間性を育み、あらゆる面で社会に必要とされる技術者の育成を目標に教職員が日々熱心に教育活動に取り組んでいます。

3. 学校法人の沿革

- 1986 学校法人金沢科学技術学園及び金沢科学技術専門学校の設置認可を受ける。
- 1987 金沢科学技術専門学校開校。
自動車工学科、コンピュータ学科、電気・電子工学科、生物工学科、素材工学科、水産増殖学科、建築デザイン学科を開設。
自動車整備士1種養成施設として運輸省より認可を受ける。
- 1988 工事担任者デジタル・アナログ試験の受験科目一部免除を郵政省より認定される。
- 1989 建築デザイン学科が石川県知事により2級建築士及び木造建築士試験の受験資格認定を受ける。インテリアデザイン学科を新設。
- 1990 本校舎（改修工事）竣工。別館新校舎竣工。
経営情報工学科、機械システム工学科を新設。
インテリアデザイン学科が、財団法人建築技術教育普及センターよりインテリアプランナー試験の受験資格に係る課程の認定を受ける。
- 1991 建築デザイン学科を建築学科に名称変更。
- 1994 水産増殖学科及び素材工学科を廃止。環境工学科を新設。
- 1995 この年の2年課程の卒業生から、文部科学省より「専門士」の称号が付与される。

- 高等課程（工業技術課程）を設置。
- 1998 コンピュータ学科の名称を情報システム学科に変更。
メディアクリエイト学科、ビジネスパソコン学科、映像イベント学科
を新設。
- 1999 マルチメディアスタジオ完成。
- 2000 電気・電子工学科をデジタル・通信工学科に名称変更。
- 2001 環境工学科、機械システム学科を廃止。
校内高速ネットワークシステム構築。
- 2002 生物工学科、インテリアデザイン学科を廃止。
プレゼンテーションルーム完成。
- 2003 自動車実習設備増設（実習室E Vを設置）。
- 2004 映像イベント学科を映像音響学科に名称変更。
家具クラフト学科を新設。
自動車工学科を整備ライセンスコースとトータルメカニックコース
の2コースに再編。
自動車実習設備増設（実習場拡張工事）。
- 2005 建築学科実習設備増設（製図機全台更新）。
- 2006 自動車工学科実習設備増設（塗装用ブース設置）。
- 2007 デジタル・通信工学科、メディアクリエイト学科を廃止。
- 2008 情報システム学科を情報工学科に名称変更し、情報システムコース
とソフトウェア開発コースの2コースを設置。
- 2009 自動車工学科実習設備更新（自動車用ラークリフト）
映像音響学科照明機材等更新。
- 2010 R C 3階建て民間アパートを学校の学生用寮棟として購入、改修。
- 2011 電気エネルギー工学科を新設。
北陸新幹線開通のため、校地の一部が金沢市により収用。
本館・別館屋上に太陽光発電装置を設置。
本館1・2階トイレ改修。
- 2012 本館校舎壁面防水工事（更新）実施。
別館実習用自動車置場の整地（収用による工事）。
- 2013 本館3・4階トイレ改修。
- 2014 本館7・8階トイレ改修。
学生寮屋上に太陽光発電装置を設置。
- 2015 本館5・6階トイレ改修。
本館蛍光灯LED照明に変更（1,400本）。
別館屋上太陽光発電装置増設。
映像音響学科にデジタルオーディオネットワークシステム導入。
- 2017 映像音響学科のi-Mac40台更新。
- 2018 情報工学科情報システムコースをWebクリエイトコースに名称変更。

- 2019 金沢科学技術専門学校を（専）金沢科学技術大学校に校名を変更。
- 2020 本館エレベータ2基を更新
- 2021 高度専門技術専攻科（2年制）を設置。
本館キュービクル更新。
本館・別館火災警報装置更新。
- 2022 別館蛍光灯LED照明に交換（372本）。
本館1～8階段非常灯LED照明に交換。
- 2023 自動車工学科「整備士ライセンスコース」を「2級コース」に名称変更。
自動車工学科トータルメカニックコースを廃止。
自動車工学科に1級自動車整備士養成の「1級コース」を設置。

4. 設置する学校・学科等

(1) 設置する学校の名称 (専) 金沢科学技術大学校

(2) 学科構成

学科名（昼間制）	修業年限	入学定員				収容定員
		1年	2年	3年	4年	
自動車工学科						
・1級コース	4年	20名	20名	20名	20名	80名
・2級コース	2年	30名	30名			60名
情報工学科	2年	50名	50名			100名
ビジネスパソコン学科	1年	20名				20名
映像音響学科	2年	40名	40名			80名
電気エネルギー学科	2年	20名	20名			40名
建築学科	2年	40名	40名			80名
家具クラフト学科	2年	20名	20名			40名
高度専門技術専攻科	2年	20名	20名			40名

5. 学校・学科及び学生数の状況

(2023年5月1日現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
(専) 金沢科学技術大学校	自動車工学科 1級コース	20名	4名	80名	4名
	自動車工学科 2級コース	30名	23名	60名	56名
	自動車工学科 トータルメカニックマスターコース	20名	0名	20名	9名
	情報工学科	50名	52名	100名	107名
	ビジネスパソコン学科	20名	1名	20名	4名
	映像音響学科	40名	40名	80名	77名
	電気エネルギー工学科	20名	11名	40名	23名
	建築学科	40名	45名	80名	84名
	家具クラフト学科	20名	7名	40名	21名
	高度専門技術専攻科	20名	0名	40名	0名

6. 役員の概要

(定員 理事8名 監事2名)

職名	氏名	就任年月日	選任区分	常・非の別	備考
理事長	中山 均	2022.6.12	3号	常勤	(学校職員)
理事	鈴木 悠一	2022.6.12	3号	常勤	(学校職員)
理事	野田 政仁	2022.6.12	3号	非常勤	弁護士
理事	高岡 龍之介	2022.6.12	3号	非常勤	会社役員
理事	本館 勇	2022.6.12	2号	非常勤	元公務員
理事	林 健司	2022.6.12	2号	非常勤	医師
理事	田島 元	2022.6.12	2号	非常勤	会社顧問
理事	田井 友章	2022.4.1	1号	常勤	(専)金沢科学技術大学校長
監事	米田 正	2022.6.12		非常勤	会社役員
監事	河野 彰人	2022.6.12		非常勤	会社役員

1号 この法人が設置する(専)金沢科学技術大学校長

2号 評議員の内から評議員会において選任した者

3号 学識経験者の内から理事会において選任した者

7. 評議員の概要

(定員 17名)

氏名	就任年月日	選任区分	備考
佐々木 孝	2022.6.12	3号	学校職員
田島 元	2022.6.12	3号	会社顧問
野田 政仁	2022.6.12	3号	弁護士
田井 友章	2022.6.12	3号	校長
林 健司	2022.6.12	3号	医師
伏島 泰全	2022.6.12	3号	僧侶
本舘 勇	2022.6.12	3号	元公務員
中山 均	2022.6.12	3号	学校職員
高岡 龍之介	2022.6.12	3号	会社役員
高木 功介	2022.6.12	2号	個人経営者
山形 信也	2022.6.12	2号	個人経営者
中村 政晴	2022.6.12	2号	会社員
竹田 紀子	2022.6.12	1号	学校職員
山中 義信	2022.6.12	1号	学校職員
徳田 佑希子	2022.6.12	1号	学校職員
大橋 嘉弘	2022.6.12	1号	学校職員
鈴木 悠一	2022.6.12	1号	学校職員

- 1号 法人の職員で理事会において推薦された者の内から、評議員会において選任した者
- 2号 この法人の設置する学校を卒業した者で年齢 25 歳以上の者の内から、理事会において選任した者
- 3号 学識経験者の内から理事会において選任した者

8. 収容定員充足率

(毎年5月1日現在)

学校名	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
(専)金沢科学技術大学校	68.7%	69.8%	68.2%	65.9%	64.6%

9. 教職員の概要

(2023年4月1日現在)

	本務者(人)	兼務者(人)
教員	17	66
職員	8(※)	0

(※派遣1名含む)

II. 事業の概要

1. 法人事業の概要

(1) 理事会

理事会の開催状況

開催日時	議 題
2023年5月26日 16:30～	2022年度事業報告並びに2022年度財務報告の件 2023年度事業計画案並びに2023年度予算案の件 学校用地の取得の件 役員賠償責任保険の契約内容の承認と契約更新の件
2023年11月27日 16:00～	校地取得の件
2024年3月13日 16:00～	令和6年度予算の件 学則変更の件

(2) 評議員会

評議員会の開催状況

開催日時	議題
2023年5月26日 15:00～	2022年度事業報告並びに2022年度財務報告の件 2023年度事業計画案並びに2023年度予算案の件
2024年3月13日 15:30～	令和6年度予算の件

2. 学校事業の概要

(1) 2023年度年間行事一覧表

令和5年度(2023年度) 年間行事予定												金沢科学技術大学校					
日	曜	2023年 4 月	日	曜	5 月	日	曜	6 月	日	曜	7 月	日	曜	8 月	日	曜	9 月
1	土	学年開始	1	月		1	木		1	土		1	火	*夏期休暇開始	1	金	M・H科授業再開
2	日		2	火		2	金		2	日		2	水		2	土	
3	月		3	水	憲法記念日	3	土		3	月		3	木		3	日	
4	火		4	木	みどりの日	4	日		4	火		4	金	◆体が入学会(AM)	4	月	
5	水		5	金	こどもの日	5	月		5	水		5	土	◆体が入学会(AM)	5	火	
6	木		6	土		6	火		6	木		6	日		6	水	
7	金		7	日		7	水	M・H科前期・中間試験	7	金		7	月		7	木	
8	土		8	月	開校記念日(5/2)の代休	8	木		8	土	◆体が入学会(AM)	8	火		8	金	
9	日		9	火		9	金	前期・中間試験	9	日		9	水	学校開校日	9	土	
10	月	入学式(石川県女性センター)	10	水		10	土		10	月		10	木	学校開校日	10	日	
11	火	オリエンテーション・後科書・教材渡し	11	木		11	日	◆体が入学会(AM)	11	火		11	金	山の日	11	月	
12	水	前期・授業!	12	金		12	月		12	水		12	土		12	火	
13	木		13	土		13	火		13	木		13	日		13	水	
14	金		14	日		14	水		14	金		14	月		14	木	
15	土		15	月		15	木		15	土		15	火		15	金	
16	日		16	火		16	金		16	日		16	水		16	土	
17	月		17	水		17	土		17	月	海の日	17	木		17	日	
18	火		18	木	(春のレクリエーション)	18	日		18	火		18	金		18	月	敬老の日
19	水		19	金		19	月		19	水		19	土		19	火	M・H科前期・期末試験
20	木		20	土		20	火		20	木		20	日	◆体が入学会(AM/PM)	20	水	
21	金		21	日	◆体が入学会(AM)	21	水		21	金	M科就職ガイダンス	21	月	学校開校日	21	木	
22	土		22	月		22	木		22	土		22	火		22	金	
23	日	◆体が入学会(AM)	23	火		23	金		23	日	◆体が入学会(AM/PM)	23	水		23	土	秋分の日、◆体が入学会(AM)
24	月		24	水		24	土		24	月		24	木		24	日	
25	火		25	木		25	日		25	火		25	金	学校開校日	25	月	
26	水		26	金		26	月		26	水		26	土	前期・期末試験	26	火	
27	木	学生健康診断	27	土		27	火		27	木		27	日		27	水	学科別集中講義
28	金	学生健康診断	28	日		28	水		28	金		28	月		28	木	
29	土	昭和の日	29	月		29	木		29	土		29	火		29	金	
30	日		30	火		30	金		30	日		30	水		30	土	
			31	水					31	月		31	木				

令和5年度(2023年度) 年間行事予定												金沢科学技術大学校					
日	曜	10 月	日	曜	11 月	日	曜	12 月	日	曜	2024年 1 月	日	曜	2 月	日	曜	3 月
1	日		1	水		1	金		1	月	元日	1	木		1	金	
2	月	後期・授業!	2	木		2	土		2	火		2	金		2	土	
3	火		3	金	文化の日	3	日		3	水		3	土		3	日	
4	水		4	土		4	月		4	木		4	日		4	月	
5	木		5	日		5	火		5	金		5	月		5	火	補講・再試験
6	金		6	月		6	水		6	土		6	火		6	水	
7	土		7	火		7	木		7	日		7	水	学年末試験	7	木	
8	日		8	水		8	金		8	月	成人の日	8	木		8	金	
9	月	スポーツの日	9	木		9	土	◆体が入学会(AM)	9	火	*冬期休暇終了	9	金	M・H科学年末試験	9	土	
10	火		10	金		10	日		10	水	●授業再開	10	土		10	日	
11	水		11	土	◆体が入学会(AM)	11	月		11	木		11	日	建国記念日	11	月	
12	木		12	日		12	火		12	金		12	月	振替休日	12	火	
13	金		13	月		13	水		13	土		13	火		13	水	
14	土	◆体が入学会(AM)	14	火		14	木		14	日		14	水		14	木	第36回・卒業式
15	日		15	水		15	金		15	月		15	木	補講・再試験	15	金	
16	月		16	木		16	土		16	火		16	金		16	土	◆体が入学会(AM)
17	火		17	金	M・H科後期中間試験	17	日		17	水		17	土	◆体が入学会(AM)	17	日	
18	水		18	土		18	月		18	木		18	日		18	月	
19	木	(秋のレクリエーション)	19	日		19	火		19	金		19	月		19	火	
20	金		20	月		20	水		20	土	◆体が入学会(AM)	20	火		20	水	春分の日
21	土		21	火	後期・中間試験	21	木		21	日		21	水		21	木	
22	日		22	水		22	金	1年生(MH除く)就職ガイダンス	22	月		22	木	M・H科補講・再試験	22	金	
23	月		23	木	勤労感謝の日	23	土	*冬期休暇開始、■第3次入試	23	火		23	金	天皇誕生日	23	土	■第6次入試
24	火		24	金		24	日		24	水		24	土	■第5次入試	24	日	自動車整備士登録試験
25	水		25	土	■第2次入試	25	月		25	木		25	日		25	月	
26	木		26	日		26	火		26	金		26	月		26	火	
27	金		27	月	M科就職ガイダンス	27	水		27	土	■第4次入試	27	火		27	水	
28	土	■第1次入試	28	火		28	木		28	日		28	水	成績・卒業判定会議	28	木	
29	日		29	水		29	金		29	月		29	木		29	金	
30	月		30	木		30	土		30	火					30	土	
31	火					31	日		31	水					31	日	学年終了

(2) 分野別学科の状況

[自動車工学科]

自動車整備士の確保に国の方も力を入れていただいている状況ですが、自動車に興味を抱く若者の減少には全く歯止めがかかっていません。

そんな状況の中、どうすれば整備士を目指す学生を増やすことができるのか。

まず、2級整備士試験の合格率100%をしっかりと維持しつつ、今年度新たに設置した1級コースの実績を着実に積み上げていくことが重要だと考えています。就職に対する抜群の強みとともに1級コース、2級コースのそれぞれの良さをアピールし、両コースの募集に一層力を入れていかなければなりません。

また、自動車業界が女性整備士の採用促進を進めているように、本校においても女性の入学生を増やしていくことも必要だと考えています。現在、自動車工学科には2名の女性が男性と一緒に頑張っています。こうした女子学生の様子も伝えながら、整備士という仕事が女性でも十分に働ける環境に変わってきていることなどを一人でも多くの女性に聞いていただけるよう取り組んでいきたいと思えます。

最後に、留学生についてです。今年度、自動車工学科に2名のネパール人の学生が入学しました。彼らには日本語の理解度をはじめ、日本人学生以上にいろいろな課題もあろうかと思いますが、整備士を志してくれたこの2名を何とか資格取得に導き、今後の学生数確保にも繋げられるよう努力していきます。

[情報系学科]

金沢学院大学の情報工学科新規開設(2024年4月)による影響を懸念していましたが、ソフトウェア開発コースでは募集定員を維持するなど、入学生数は全体として減少はしたものの健闘できたのではないかと考えています。

AI(人工知能)やビッグデータ(※)の導入、5G(※)の実装、AR・VR(※)の普及への期待が非常に高く、IT(※)人材の需要は増加しています。しかし、その一方で経済産業省の推計結果によると、2030年には約79万人の人材不足が予測され、今後この問題はさらに深刻化すると考えられています。

世界のトップ産業がIT業界(世界時価総額ランキング 上位10社中 8社がIT企業)といったこともあるためか、高校生が情報分野への進学を希望する傾向(10年前と比較して情報系を志望する学生は34%増加)を追い風として、他校に負けない教育力を発揮し、学生確保に努めていきたいと思えます。

※ビッグデータ→人間では全体を把握することが困難な巨大なデータ群

※5G→第5世代通信システム。従来の無線通信システムである4Gに比べ、高周波数帯を利用した超広帯域伝送などによる「高速大容量」の通信ができることに加え、「低遅延」、「多数接続」といった特徴を持つ

※AR→拡張現実(Augmented Reality) 現実の世界の一部に仮想世界を反映させる技術

VR→仮想現実(Virtual Reality) 仮想世界に現実の人間の動きを反映させて、現実ではないが現

実のように感じさせる技術

※ I T→情報技術 (Information Technology) 情報を扱う技術の総称

[映像音響学科]

映像音響学科については、令和 5 年度の 40 名入学に続き、令和 6 年度も 38 名とほぼ定員に達する安定した入学者数を確保しています。また数年前からドロップアウトする学生を出さないという目標を学科として掲げ、その方策に取り組んでいるためか進級率の改善がみられ、学科全体で 75 名を超える学生数を数年に渡り維持することができています。

多様化する業界ニーズは日々変化してきており、最新の情報を常に取り入れ、高度な技術を学べるカリキュラムに更新していく必要があると考えています。

令和 6 年度は新たに 4K 対応のカメラを複数台導入するなど、環境面においても改善を続け、北陸で唯一の映像音響関連技術を学べる学科、という体制を確固たるものにしていきます。

また、学外へのアピールとして、3 万人の若者が集まるロック音楽フェスへのインターンシップ参加や 10 代が主メンバーのミュージカル撮影など、関連技術に興味を持つ若者が集まる機会への露出を定期的に行っています。

課題として、学科定員を 30 名から 40 名に増やして以降、慢性的なマンパワー不足があり、学科の半数を占める女子学生のケアなど、現在の体制は不十分な部分があります。また各分野のメインとなっている非常勤講師の高齢化も進んでおり、近年中に新しい講師の発掘や体制の変更、人的な補填が、これからの安定的な学科運営に必要なようになってくるものと思われれます。

就職においても、卒業する学生数に対しての地元の就職先の数が充分ではない中で、今後の就職指導も難しい状況が予想されます。入学から卒業まで一貫した学校としての丁寧なサポートが学生の満足度に繋がり、安定した入学者数獲得につながるものと思われれます。

[電気エネルギー工学科]

令和 5 年度も全員 (11 名) の卒業と就職率 100% を達成するとともに、資格については第二種電気工事士全員取得、第一種電気工事士は 8 名 (73%)、2 級電気施工管理技士補は 5 名 (45%)、さらには消防設備士の甲種 4 類にも合格者がでています。しかし、入学者は定員の 20 名を超えたときもありましたが、最近は半数程度という厳しい状況です。

魅力ある学科づくりの取り組みとして、まず授業内容の見直しを行い、例えば科目『制御』について新たな教育機材を導入し、アナログ制御からデジタル制御へと発展させ学生のニーズに応えられるようにしました。

また、多様な学習ができるようカリキュラムの見直しにも取り組んでいます。電気エネルギー工学科の学生は、電気工事業を選択する学生が多いのですが、その要因として 1 年次の学習内容と関連していることが考えられます。就職先が電気工事業関連の会社が多いことそのものは決して悪いことではありませんが、学生がもっと幅広い会社選びができるように令和 6 年度のカリキュラム改訂では 1 年次に新たな科目を設けました。具体的には、科目『マイコン技術』4 単位 (延べ 60 時間) を設けソフトからハードまで学習できるようにし

ました。こうした電気工事関連科目だけでなく多様な学習ができる科であることを強くアピールしていきたいと思っています。

体験入学でもマイコン技術や制御技術を取り入れた教材を使用することにより、これまでと違った学生の応募者も期待しているところです。

これらの施策を推進し、今後とも学生や社会のニーズを踏まえた授業内容やカリキュラムの不断の見直しを行い、電気工事業だけではなく通信業や製造業への就職も視野に入れた教育環境の充実によって多様な能力をもった学生の志願者増につなげたいと考えています。

[建築学科]

建築学科は、過去に入学生数が 30 名以下と低迷していた時期もありましたが、平成 29 年度以降 7 年間に渡りほぼ 40 名の定員を確保し続けていました。しかし、今年度は 38 名とわずかではあります。定員割れとなっていました。その原因を考え、来年度は定員をしっかりと確保していきたいと思っています。

現在、建築系業種からの求人は急増していますが、それはもちろん業界の人手不足があるからであり、特に若者の人材不足が顕著となっています。来年に迫る大阪万博の大プロジェクトや、老朽化したインフラ整備に伴う建築需要の高まり、また能登半島地震の復興等により、今後ますます建築技術者の不足が予測されます。

人材不足による人件費の高騰だけでなく、建築資材の不足や円安による材料費の高騰で建設費が膨らむなど、いろいろな課題を抱える建築業界ですが、それだけに人材育成を担う建築学科への期待は高いと思います。

建築士の合格率については、学生に目的意識を高く、そして強く持たせ合格率を上げていきたいと思っています。また一方で、建築分野の就職先は幅広いことから、たとえ建築士を取れなくても適材適所に就職することができることを学生に理解させるなど細やかな指導をしていきます。

「建築のまち金沢」、「学生のまち金沢」と言われています。より一層、金沢の地の利を生かした教育を行っていこうと考えています。

[家具クラフト学科]

令和 5 年度の入学生 7 人、令和 6 年度も 7 人となっています。定員は 20 名になっていますが、開設以来 10 人前後で推移しています。デザインを学べる学科は多くありますが、デザインしたものを実際に作る学科は全国的にも珍しいため、北陸 3 県以外にも全国から希望者が来ています。(2 年生は北陸 3 県ですが、1 年生は 7 人中 2 人が北陸 3 県以外です)

また、その特殊性のため、本当に物づくりが好きな学生が集まっています。小中学校で、物づくりをする機会が減っているからかもしれませんが、本校入学後に形を作って完成した経験をする、楽しいと感じているようです。実際に体験入学では、小さいときに物づくり経験のある親世代が興味を持ってくれることが多いです。学生には、やりがいを感じられてやって楽しい仕事として紹介して、希望者の確保につなげていきたいと考えています。

建築の需要が増えて、建築学科の学生が増えています。昨年の家具クラフト学科の卒業生は14人と建築ブームの流れを受けたかもしれませんが、建築学科が増えたから、家具クラフト学科が増えるのかは、はっきりしません。こだわりを持った人が入学希望するケースが多く、世の中の流行に左右されにくい印象も受けます。また建築学科の中には、大工を希望する生徒もいて、机に向かって作業するのが苦手な学生であっても意欲を持って取り組める授業を工夫していきたいと思っています。

一方で、若い世代において、年々向上心がやや弱く、作ることが面倒くさいと考える人が増えているような印象があります。楽な方にいきたいと考えたり、派手に見えるものに興味がいくなど、大変そうに見える家具クラフト学科には、不利になるのではと懸念しています。

就職面では、件数は多いわけではありませんが、地元を中心にニーズはあり、本人に働く意思があれば仕事はあるので、就職率は100%を維持しています。

(3). 各課の事業報告

[教務課]

<主な業務内容>

- 4月 新入生データの取り込み及び学籍簿作成、教科書等の入荷検品 等
- 5月 学校基本調査、会員校概況調査 等
- 6月 自動車工学科科前期中間試験結果発送 等
- 7月 私立学校実態調査 等
- 8月 自主点検表作成と依頼 等
- 9月 入学試験問題作成 等
- 10月 前期成績集約と発送準備、保護者向けアンケートの発送と集計 等
- 11月 学生向けアンケート配布 等
- 12月 教職員10年表彰申請、学生向けアンケート集計 等
- 1月 休学者への復学伺い発送、次年度カリキュラム作成 等
- 2月 次年度学生諸費等取りまとめ、卒業式関係準備 等
- 3月 卒業式関係準備、次年度教科書等発注 等

R5年度より学校評価アンケートおよび授業評価アンケートを、全保護者・全学生に電子媒体によって実施しました。その結果、集計の作業は効率化できたものの、回答率が学生13%、保護者35%と低迷してしまいました。

進級率については、まだまだ改善の余地があります。また、R5年度卒業生の卒業率(R4年度入学)は82.7%で、これにしても今後さらなる改善が必要です。退学の要因としては学習意欲の低下や目的意識の喪失、学力不足、進路変更など多岐に及びます。国による修学支援金制度があるなかでも進級時に経済的事情による退学する学生も1名いました。

退学率を減少させることは、入学者数が減る中でも学生数を確保するうえで一番重要なことであると考えられます。学生にとって分かりやすい授業や学校生活でのケアの充実など、進級率・卒業率の改善と退学率の減少に向けての教職員のさらなる努力が必要と考えています。

[就職課]

<主な業務内容>

5～7月	校内会社説明会（情報工学科）
7月	就職ガイダンス（自動車工学科）
9～3月	内定状況報告（石川県総務部・ヤングハローワーク）
11～12月	就職ガイダンス
通年	就職活動の相談受付、面接対策 履歴書、エントリーシートなどのアドバイス

<求人状況と就職率について>

令和5年度の卒業生185名への求人状況については前年度に引き続き好調で、求人数は就職希望者数（175名）の9倍弱（1,522名）に達しました。就職希望者のうち就職内定者は169名、就職内定率は96.6%（前年度：97.2%）となりました。

学科別の状況は、自動車工学科では地元のディーラーの他に、フォークリフトなどの産業車両の整備、保険のアジャスター職の求人票をいただくなど依然として自動車整備関連企業の求人意欲は強く、令和5年度で内定率100%を14年間連続で維持出来ています。就職活動開始のタイミングは早く、1年生の夏休みにはディーラーを中心に会社見学会を実施し2年生進級時には82.0%が内定を得ている状況です。

情報系の学科では東京など関東圏を中心とした情報処理関連企業からの求人にとどまらず、会社内のDX化に対応するために社内のシステムエンジニアなど多岐に渡る分野からの求人があります。近年、首都圏に就職する学生が増えているため、校内の説明会では石川の企業と首都圏の企業を同数程度とするよう計画しています。

映像音響学科においては2020年にコロナ禍で激減したイベント系の企業の求人が徐々に回復しています。

電気エネルギー工学科においては、新卒者のなり手不足を背景に旺盛な求人意欲があり、令和6年度も同様の傾向が予想されます。

建築学科では、施工管理職の求人が最も多いため、施工管理職の魅力を伝える会社説明会なども校内で実施しています。設計職の求人は以前よりも増加しており、学生がチャレンジ出来るようになってきています。

家具クラフト学科の学生は、木工の仕事を中心に就職活動をしていますが、最終的に県外の彫刻の会社、販売職などに就職するケースもあります。

近年、就職活動の早期化、長期化が目立っていることを感じます。早くから説明会に参加するなど情報収集し、内定後もより良い会社を探すことは悪くないのかもしれませんが。しかし授業、実習などが疎かになると早期の離職につながるのではと不安も感じます。できるだけ効率的に就職活動ができるように支援したいと思います。

※アジャスター職→自動車事故が起こったときに、正確な事故状況調査や修理費の適正な認定、スムー

ズな示談交渉などの業務を担当する職

※DX化→企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して顧客や社会のニーズを基に製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや組織、プロセス、企業文化、風土を変革し、競争上の優位性を確保すること

[学生課]

<主な業務内容>

- 4月 通学証明書作成、自動車通学証明書作成、奨学金説明会
ゴミ出しマナー講座、学生健康診断
- 5月 春のレクリエーション
- 10月 秋のレクリエーション
- 2月 新2年生 通学証明書作成
- 通年 日本学生支援機構奨学金手続き、学生の生活指導及び交通指導
通学証明書・学割の発行、外国人留学生在籍調査
保護者・学生対応

本校は3年前から高等教育無償化の対象校となり、給付型奨学金の申請が可能となりました。給付型奨学金は返済の必要がないため、就職後の負担が少なく、メリットが大きい制度です。保護者と学生の経済的負担を軽減するため、多くの学生に利用してもらえるように努めています。

また、能登半島地震により学生生活に影響を受けた学生には、早急に災害支援金（10万円給付）の案内を提供しました。さらに、交通機関が停止し、登校できない学生には無償で学生寮を提供し、勉学可能な環境を整えました。

本校の学生は広範囲の地域から通学しているため、多くの公共交通機関で学生割引を利用できるようにしています。令和5年度から「えちごトキメキ鉄道(株)」、そして今年度からは「ハピライン福井鉄道」でも学生割引を利用できるようになりました。

学生課は、より良い学校生活を送るために大変重要な職務を担っています。少しでも多くの学生の学校生活をサポートできるよう、努力していきます。

[広報課]

<主な業務内容>

- 学校案内書及び募集要項、チラシ・ポスターなどの作成
- 資料請求及び問い合わせ、見学等の対応
- ホームページの情報更新
- SNS及びホームページにおいて学校や学科の情報やNewsを発信
- テレビ及び動画配信におけるCM放映／テレビ取材(パブリシティ)対応
- SNS上での広告企画対応
- 高校訪問
- 業者運営によるガイダンスへの参加

- 専各連合会主催「学びフェスタ」などイベントへの参画運営(自動車工学科)
- DM制作発送
- 各進学情報誌及び進学情報サイトへの広告掲載(原稿制作含む)
- 高校関連、マスメディアへの広告掲載
- 体験入学会の運営
- 入学願書受付及び入学試験に関わる運営
- その他、学生交流イベントの企画運営
- 入学式の運営 など

(4) 校舎施設、教育用設備等について

<令和5年度実績>

教育用設備面では、本館1階PC1教室のiMac43台の入替を年度当初に実施しました。更新前のiMacは映像音響学科の教育機器として6年間使用しましたが、最近のソフトウェアが要求するハード的な能力を満たす事が出来なくなっており、最新のものへの更新が必要でした。(¥11,489,600)

また自動車工学科では、エーミング(※)等の新技術に対応でき、且つ令和6年10月から始まる自動車の電子的な検査(※OBD車検)の授業にも対応できるように、整備士教育機関用モデルのスキャンツール1台(¥470,800)の導入も行いました。

※エーミング→走行用電子制御装置が正しく作動するための校正・調整作業。具体的には、レーダーセンサーや音波センサーのついた外装類の脱着や、カメラが付いたフロントガラスの交換、フレーム修正を伴う板金塗装を行ったとき先進安全装置を正しく作動させるために行う校正作業の意味

※OBD→「On Board Diagnostics/オン・ボード・ダイアグノーシス」の頭文字を取ったもので、日本語にすると「車載故障診断装置」で車の自己診断を行なうシステム・機器のことを指

校舎施設面では学生の宿泊施設である「ドミトリーKist」(学生寮)の避難用ハッチ全数(7カ所)の交換を行いました。1988年の建設時に設置されたもので、老朽化が著しく、火災時の避難の際に正常に作動しない恐れがある事を消防設備点検にて指摘されていました。(¥1,419,000) また、本館東壁面の地上約25mに設置された壁面看板の色落ちが激しく見苦しい状態となっている事や壁面との取付部の老朽化も予想され、最悪落下の可能性もあるため、これを更新致しました。(¥2,027,300)

さらに、本館の校長室の屋根板と教員室倉庫の屋根板の腐食が激しく、これも雨漏りの一因と予想されたため、屋根板の張替工事を行いました。(¥1,280,000)

また、令和5年11月27日開催の理事会において承認された別館校地(91.89㎡)の購入を3月25日に実施致しました。(¥15,000,000)

その他の設備としては、2024年1月から電子帳簿保存法による電子取引データの電子保存義務化が開始され、これに対応した経理システムの導入を実施しました。

(¥3,787,060) またこの導入に際しては経済産業省からのIT補助金(¥1,084,015)を受けられました。

また上記以外の実績については以下の通りとなります。

- ① 5月に自動車工学科に「いすゞ中部株式会社」様から整備士養成の教材用として4HK1エンジン4基の寄贈を頂きました。このジーゼルエンジンはいすゞフォワードに搭載され、優れた環境性能と燃費の高効率化を両立させたクリーンエンジンと言われております。
- ② 7月に株式会社ユアブレインズ様から「ごうぎんSDGs 私募債（教育機関寄贈）」を利用した物品寄贈（10万円相当）として、NAS購入費用の一部に充てさせていただきました。この私募債は企業と山陰合同銀行が連名で行う教育機関向けの物品寄贈の金融商品となっています。これまで株式会社ユアブレインズ様に多くの卒業生を採用頂いている事もあって今回の寄贈に至った訳ですが、山陰合同銀行様によると兵庫県の企業が他県（石川県）の学校に寄贈する例は非常にまれであるとの事でした。
- ③ 9月に日産自動車株式会社様から実習用車両としてセレナ（新車）1台を無償で貸与して頂き、同月22日には寄贈式を行いました。
（昨年度は同様に電気自動車アリア1台（新車）を、またその前年度にはスカイライン1台（新車）無償貸与して頂いております。）
- ④ 1月1日に能登半島地震が発生し各所に大きな被害をもたらしました。金沢市でも震度5強が観測されました。しかし幸いにも当校舎については、外壁のタイルが数枚落下し、7階及び8階の実習機材棚や書棚が倒れた程度等々で済みであり、大きな被害を免れました。

Ⅲ. 財務の概要

1. 事業活動収支計算書

（単位：円）

区分		科目		
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	354,648,000	
		手数料	11,342,360	
		寄付金	0	
		経常費等補助金	23,929,215	
		付随事業収入	6,092,110	
		雑収入	2,990,765	
		教育活動収入計	399,002,450	
	事業活動支出の部	人件費	194,535,686	
		教育研究・管理費支出	162,664,564	
		徴収不能額等	0	
		教育活動支出計	357,200,250	
	教育活動収支差額			41,802,200
	教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	1,339,851
			その他の教育活動外収入	504,000
教育活動外収入計			1,843,851	
事業活動支出の部		借入金等利息	6,616,056	
		その他の教育活動外支出	0	
		教育活動外支出計	6,616,056	
教育活動収支差額			△ 4,772,205	
経常収支差額			37,029,995	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	
		その他の特別収入	0	
		特別収入計	0	
	事業活動支出の部	有価証券評価損	0	
		固定資産除却損	0	
		教育活動外支出計	0	
教育活動収支差額			0	
基本金組入前当年度収支差額			37,029,995	
基本金組入額合計			△ 64,206,860	
当年度収支差額			△ 27,176,865	
前年度繰越収支差額			△ 870,157,023	
基本金取崩額			0	
翌年度繰越収支差額			△ 897,333,888	
(参考)				
事業活動収入計			400,846,301	
事業活動支出計			363,816,306	

2. 貸借対照表

資産の部		(単位:円)
科目	期末残高	
固定資産	1,827,118,816	
有形固定資産	1,816,004,411	
その他の固定資産	11,114,405	
流動資産	1,039,755,245	
資産の部合計	2,866,874,061	
負債の部		
科目	期末残高	
固定負債	306,600,000	
流動負債	425,397,943	
負債の部合計	731,997,943	
純資産の部		
科目	期末残高	
基本金	3,032,210,006	
第1号基本金	3,006,210,006	
第4号基本金	26,000,000	
繰越収支差額	△ 897,333,888	
純資産の部合計	2,134,876,118	
負債及び純資産の部合計		2,866,874,061

3. 財産目録

(単位:円)

科目	
資産総額	2,866,874,061
基本財産	1,827,118,816
運用財産	1,039,755,245
負債総額	731,997,943
固定負債	306,600,000
流動負債	425,397,943
正味財産	2,134,876,118